

R3年度 大和こども園「こども園における自己評価」 大和こども園職員56名評価

A：たいへんよい B：よい C：一部検討を要する D：改善を要する

項目	内 容	評価(%)				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
教育・保育理念	(1) 理念や基本方針が職員に周知されているか		○			・今年度は「やりたいことにチャレンジする子」という目指す子ども像をわかりやすく掲げ、理念等に基づいた教育保育を心がけた。子どもの「やってみたい」「やりたい」が実現できる環境の工夫に努めた。今後も継続して魅力ある遊び環境づくりを行っていききたい。
	(2) 理念や基本方針が利用者に周知されているか		○			
	(3) 理念や基本方針に基づいた教育保育が行われているか		○			
	(4) 一人一人の子どもの人権を尊重した教育保育について共通の理解を持っているか		○			
教育・保育の計画	(1) 社会状況の変化やこれまでの課題を踏まえて教育課程の見直しを行っているか		○			・日誌の形式変更から、日々の保育の振り返りが意図的にできるようになった。毎週金曜日に、子どもの姿や遊びの場面から、子どもの育ちを職員間で共有し、次週の保育に繋げている。今後、振り返り（話し合い）の時間の確保が重要であり課題である。 ・全体の計画（教育課程、年間月間指導計画）が週の活動や日々の教育保育に十分活用されていない。次年度は、指導計画の見直しを行っていききたい。
	(2) 指導計画は今年度の3つの視点を踏まえ、その年齢に応じた体験が展開できるように配慮し作成されているか		○			
	(3) 保育実践を職員間で振り返り、月・週の目標、日々の保育のねらいを設定しているか		○			
子どもへの発達援助	(1) 子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間で共有しているか		○			・子どもの主体性、自主性を大切にする保育がどのような保育なのかを考え、迷い、ためらい、試行錯誤しながら「子ども主体」の保育を目指し、前へ進んでいこうとしている。その中で、子どもの思いに寄り添いながら、「自分で決める」「遊びを選択する」経験が十分にできる時間の保障、子どもの興味、好奇心を揺さぶる環境づくりを常に意識するようになった。しかし環境構成に難しさを感じている職員もいる。また、子ども主体の保育を実現する上で欠かせないことは、職員間の「保育観の共有」であるともわかった。子どもを語る、保育を語る風土づくりに努めていききたい。 ・一人一人の発達の状況に応じた援助、声かけを心がけたが、子ども達に否定的な言葉が出てしまうこともあった。子どもが安心感をもって過ごせるよう共感的、応答的な接し方に努めたい。
	(2) 子どもが安心感をもって過ごせるよう共感的・応答的な接し方（言葉、態度）を行っているか		○			
	(3) 職員間で子ども理解に努め、一人一人に応じた働きかけや援助を行っているか		○			
	(4) 子どもの主体性を生かすよう物的・人的な環境構成の工夫を行っているか		○			
	(5) 子ども自らが判断できるような場面を意図的に持つことができたか		○			
	(6) 子どもと子ども、子どもと保育者が対話する場面を意図的に持つことができたか		○			
	(7) 保育者主導の保育にならないよう、必要最小限の支援・援助としたか		○			
	(8) 子どもを指導する場面では、感情的にならず、心を落ち着かせて行えたか		○			
	(9) 子どもの年齢に応じた発達の特徴を把握し、活動を展開できたか		○			
	(10) 子どもに相応しい食生活が展開されるように食事について見直し、食事を楽しむことができるように工夫したか		○			
	(11) 支援を要する子どもに対して、個別の指導計画をもとに、見直しをもって支援・援助することができたか		○			
	(12) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者との関わりに配慮したか		○			

項目	内 容	評価(%)				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
保護者に 対する 支援	(1) 子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者との共通の理解を得るための機会を設けたか		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でも安全対策を行い出来る限りの行事を開催することができた。行事日程の変更、中止、延期が繰り返される中、保護者の行事参加可否について保護者からの要望や苦情が数件あった。その際、保護者の思いに寄り添ったり、早急に解決策を見出したりする等丁寧な対応を心がけ、最大限保護者の意見を反映するよう努めた。</li> <li>・クラス懇談会や個人懇談を設けることで一人一人の保護者の子育ての悩みや園での子どもの様子を伝え合うことができ保護者同士のコミュニケーションの場を作ることができ良かった。</li> </ul>
	(2) 通信や動画の配信により、園の様子を十分に伝えることができたか		○			
	(3) 保護者からの相談や意見等について誠実に対応し、保育実践に反映できるものは保育の充実に生かすことができたか		○			
	(4) 園は、虐待に対応できる園内の体制（医療機関、児童相談所などの専門機関との連携）の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか		○			
教育 保育を 支える 組織的 基礎	(1) 施設長は、リーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容と充実が図れるよう努めているか		○			<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の避難訓練は、これまでと異なり様々な想定で実施し保育者がその状況を適切に判断し子どもを速やかに誘導することに重点を置いた。想定外の状況に、慌てたり判断に迷うことも多々あり、訓練後は検証をしっかりと行い、緊急時に備えるよう努めている。職員は、子どもの命を守るための「職員自身の訓練である」ことを常に意識し、緊急性を持ち訓練に臨んでいる。その姿勢に変化が見られる。</li> <li>・本園にはいくつか異なる職種の職員がいて働き方も多様である。また、外国籍児童や職員もいる。それぞれの特性を活かし、互いに尊重し合い必要なことを共有し子どもの育ちを支えるよう努めている。</li> <li>・新型コロナウイルスについては、小松市や法人本部等と協議し、その都度対応を進めた。特に状況の変化による対応の違いを職員間で共有することや保護者にわかりやすく伝えることは慎重に行った。</li> <li>・保育の質の確保、向上のため職員の業務削減に取り組んでいる。負担と感じる業務が多いほど、保育に支障をきたし不安や悩みが増大する。ノンコンタクトタイム取得の保障が必然である。職員一人一人が重要な役割を担っていることが感じられる職場、働きやすい、楽しい職場となるよう、助け合う心を持って課題解決に向かっていきたい。</li> </ul>
	(2) 部屋の運営は、仕事分担が適切にされ、協働して保育がなされているか		○			
	(3) 教育保育計画（月案・週案・日案）を共有し、振り返りを他の職員とともに進めたか		○			
	(4) 日々の保育のねらいを職員間で共有し、保育実践を行っているか		○			
	(5) 自己の不安や悩みについて相談することができたか		○			
	(6) 職種や国籍等によって仕事のやりにくさを感じたことはないか		○			
	(7) 保護者や子どもの個人情報漏洩や滅却がないよう適切に管理しているか		○			
	(8) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、看護師の専門性を活かした対応を図っているか		○			
	(9) 体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか	○				
	(10) 避難訓練・安全点検・不審者侵入防止等子どもの安全確保のため、職員としての緊急時の行動を身に付けるよう努めているか		○			
	(11) 地震などの自然災害に対する防災対策を行っているか		○			
	(12) 苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○			
	(13) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか		○			
	(14) 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか		○			

監事評価

- ・「やってみたい」「やりたい」ができるための環境の工夫は、昨年度から評価がアップしています。今年度の取り組みが伺えます。
- ・子どもの主体性、自主性を大切にする保育への取り組み、環境構成に工夫している様子が見られます。保護者の方にも本園の教育保育を様々な方法で伝えていることは良いことです。
- ・毎週金曜日を話し合いの日に定め、1週間の保育の振り返りが継続されています。子どもを語る、保育を語る、保育の共有は、職員の保育観が培われます。努めて下さい。
- ・避難訓練を様々な想定の下、「職員自身の訓練」と受け止め緊急性を持って実施しています。昨年度より職員の防災意識の高まりが見られ、前進ある姿が見られます。
- ・登降園時の安全については、立地上難しい点もありますが命が第一ですので今後も十分配慮をお願いします。